

生涯学習館

「じゃあ、読も。」 —2010年は国民読書年です。—

★30日(金)は
館内整理日のため休館です。

開館時間 平日10:00~19:00
土・日 9:00~17:00

P ←このマークがついているイベントはとしょかんパスポート対象事業です。パスポートを持って参加してね!

P わらべうたでスキンシップ

いつでもどこでも楽しく遊べるわらべうたを覚えて親子のあったかいふれあいの時間を増やしましょう!!

日時:6月15日(火)、29日(火)
7月15日(木)、29日(火)
8月6日(金)、8月17日(火)
すべて午前10時30分~

場所:子ども未来創造館

講師:斉藤順子先生

対象:0~3歳のお子さんと保護者

P おやこで工作あそび

親子で協力して簡単だけど作って楽しい! あそんで楽しい工作をしましょう♪ 月1回の教室です。なにを作るかはお楽しみに...

日時:6月18日(金)

午前10時30分~

対象:0~3歳のお子さんと保護者

定員:親子20組

P げんキッズクラブ

1年を通していろんな本を読んでみよう♪ 11月にはお楽しみ遠足もあります!!

日時:6月12日(土)、7月23日(金)、
8月18日(水)、10月23日(土)、
11月6日(土)、1月7日(金)
午前9時30分~午前11時30分

場所:生涯学習館 学習室1

対象:小学校3、4年生

お申込み・お問合せ:生涯学習館(TEL73-1212)まで!!

布絵本製作ボランティア大募集!!

布絵本製作ボランティア「エンゼル」では一緒に布絵本を作っていただけの方を募集しています。手芸が好きな方大歓迎!! まずは見学だけでもOKです。

活動日:毎月第2,4土曜日、第3木曜日
午後1時~

お問合せ:生涯学習館(TEL73-1212)

~図書館を使いこなす“ツボ”、教えます~

図書館入門講座

普段は見られない生涯学習館の裏側や資料・情報の探し方のコツがわかる!! インターネットも体験できます。この講座であたかも「図書館通」になりませんか?

毎月第4金曜日 午前10時30分~

参加希望の方は当日までにお電話もしくは窓口まで直接お申込みください。

1冊の本から見える、いろんなキモチ 第43回読書会

日時:6月26日(土) 午後2時~

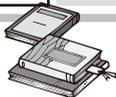
場所:生涯学習館 学習室1

課題:「センス・オブ・ワンダー」/レイチェル・カーソン

大石分館ぶちリニュー-アップ!!

大石分館が新たなレイアウトになりました。ちょっと広くなって、テーブルも設置いたしました。ゆったり過ごせる大石分館にぜひお越しください。

♪新着図書情報♪



- ◎つやのよる/井上荒野 ◎炎上する君/西加奈子 ◎MUSIC/古川日出男
- ◎きみが見つかる物語/あさのあつこ ◎音のイリュージョン/柏野牧夫
- ◎中国歴史偽造帝国/有本香 ◎自転車と旅 ◎競売不動産を買うときの基礎知識/小柴一生 ◎新入社員は「話し方」でグングン伸びる/福田健 ◎元気な子どもが育つ家/藤田洋 ◎◎親と子の心の解決集/富田富士也 ◎すぐ覚えらるるわらべうたあそび/木村はるみ ◎いきいき脳のつくり方/古賀良彦 ◎家中みんなの簡単ヘアカット/市川良子 ◎農業を起業する/大島七々三 ◎自分でできるかんたん洋服お直しの本/宮原智子 ◎50代からのサプリメント・バイブル/佐藤務 ◎クレヨン王国笑えるむかし話/福永令三 ◎奇跡のウエディング/高橋梨香 ◎手賀沼/吉住侑子 ほか

♪新着CD情報♪

- ◎ボーカリスト4/徳永英明
- ◎Rock'n Roll circus/浜崎あゆみ
- ◎ノスタルジー/西本智実
- ◎エコー/レオナルド・イス
- ◎松本隆に捧ぐ-風街DNA-
- ◎ザ・ベスト最新こどものうた



他6月上旬貸出開始予定

◎読み聞かせ会◎

●0・1・2・3歳対象〈午前10時30分~〉

P ブラウンベア(えいご) 6月 8日(火)

P うさぎのおやこ 6月22日(火)

●幼児~小学生低学年対象〈午後1時30分~〉

P パパのえほんタイム 6月12日(土)

P イトワールの会 6月26日(土)

6月の分館の予定

	開館日	開館時間	読み聞かせ会 午後4時30分~
大石・河口	火・木曜日	午後3時~6時	P 15日
上九一色	月~金曜日	午後1時~5時	P 16日



問い合わせ/生涯学習館

TEL ☎ 0555-73-1212 FAX ☎ 0555-73-1358

URL 🌐 <http://www.fujikawaguchiko.ed.jp>

E-mail ✉ library@fujikawaguchiko.ed.jp

富士河口湖町女性交流センター

みずうみ通信



センターみずうみ3周年記念祭
—みんないきいき輝いて—

特集

五月二十三日(日) 女性交流センター三周年記念祭が開催され、今回も華やかにそして和やかに実施することが出来ました。

小雨降る天候の中、いつも出席して下さいさる町内の皆さまを始め、富士ヶ嶺、富士吉田、忍野、山梨市等の遠隔地からも多数出席された女性ならではの交流会の広さを感じました。また夫妻で出席された方を何組か拝見して、ふと、「女性交流センター」の名稱を「町民交流センター」と改めたいとも思いました。

来賓としてお越し戴いた古屋教育長様そして、白壁県議様には、公務が多忙な中終始にこやかにお付合いただき、主催者一同深く感謝いたしました。ありがとうございました。

記念祭テーマである「再びよみがえる昔の衣装」も三回の発表を重ねますと、リフォームの輪がぐんと広がり、ファッショ的にも優れた数々の衣装の見事さ、目を見張りました。特に男性の



「三尺」は絹の上品品に「しほり」が施されていて品格があふれています。その上、ぜいたくに布地を使っているので、如何様にもデザインが可能です。このたびは、男性の(三尺)が注目され、たくさんの方が作品を発表されていきます。



今後の課題としては、如何にして自分自身がリフォームの技術を身につけることができるか、という点にあります。この課題に挑戦していくために、まずは、古布で、すぐ簡単にできる帽子づくりやチョッキづくりを学んでいきたいと思えます。講師は町内の名人にお願いして指導を受けます。とにかく「センターみずうみ」では、エコ推進にむかつて今後も実践力を高めて行こうと誓い合いました。

多くの参加者の熱い支援と励ましを受けて第三回記念祭は最高に盛り上がりました。特別出演していただき、会場の人々の心を癒して下さった扇巴流家元、白壁秀子様は厚く御礼申し上げます。

そして今回も、かわいい演技でみんなを楽しませ元気づけてくれた「劇団はねっこ」へいっぱいの拍手をおくりませう。

アンケート・出席者のお声

- ◎私を作ったリフォームの作品、みずうみの委員さんに着ていただき本当に嬉しかった。
- ◎小物のアイデアが楽しく役に立った(複数あった)
- ◎明日からの暮らしに参考になるアイデアがいっぱいあった。
- ◎実行委員の団結心と行動力に感動、これからも頑張ろう!
- ◎三回参加したが、今年がより参考になった。
- ◎来年も期待している。楽しみです。(いちばん多かった)
- ◎陳列された、手染のスカーフ・布絵・わが町には素敵な名人がたくさんいて頼もしい。
- ◎洋服をしているので、特に興味深く参加できた。素晴らしい。
- ◎昨年より厚みのある内容だった。
- ◎出演者がいずれの方も堂々としてお見事。
- ◎エコ運動では自然や環境の面にも。
- ◎高価な着物を切ってしまうのは勿体ないのでは。
- ◎モデルの美しさ・舞踊の見事さにうっとりした。
- ◎社会参加の皆さんは、大変若々しく立派。

劇団はねっこの皆さんへ

- ◎とても楽しく元気を貰った。
- ◎ありがとう!
- ◎はねっ子さんから心のごちそうをいただいた、よかったです!
- ◎演技が素晴らしく、子どもがいきいきしていました。
- ◎ほほえましく気持ちがなごんだ。
- ◎子どもの一生懸命さがジーンと伝わってきた。
- ◎ひとりひとり輝やっていた。
- ◎のびのびして可愛かった。
- ◎大人たちに元気をくれて有難う!



富士と湖の 自然をみつめて

Nature in and around Mount Fuji



富士山生物多様性研究イノシアティブ・プロジェクトが始まりました

生物多様性年でもある2010年を期して、富士山の自然保護のための基礎的な生態調査を行う「富士山生物多様性研究イノシアティブ」のプロジェクトが始まりました。5月14～16日には、2003年の開始から8年目を迎えた「富士山周辺の絶滅危惧チョウ類」のプロジェクトが行われ、愛知・埼玉・東京から5名のボランティアが参加して下さいました。

初日は、絶滅危惧種ミヤマシジミの富士山の生息地に最も近い身延町の生息地で定期的に行っている幼虫と成虫の個体数調査を行いました。最初の1ヶ所では幼虫が1頭しか見つかりませんでしたが、午後調査を行った2ヶ所目では30頭以上の幼虫と羽化したばかりの成虫が確認され、山梨県内で最も良好な生息地であることが確かめられました。

2日目は、絶滅危惧種アサマシジミの調査を河口・船津地区で行い、合計38頭の幼虫が確認され、特に河口地区は昨年に引き続き良好な発生が期待される結果となりました。並行して行った船津里山環境でのモニタリング調査では、アサマシジミ以外に、ヤマ



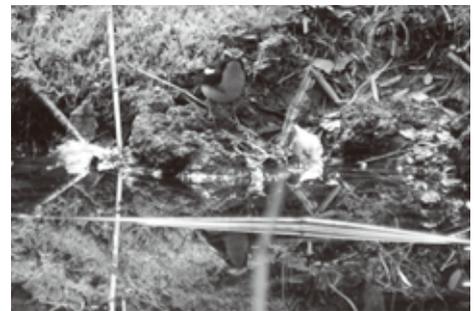
キチョウ・ヒメシロチョウの合計3種の絶滅危惧種が確認され、ここが富士山麓の貴重な里山環境であることが再確認されました。その後も、富士山の草原で絶滅危惧種チャマダラセセリの調査を行いました。今年は陽気の進みが遅いこともあり、全く確認することはできず、伐採地を中心に生息しているチャマダラセセリが、まだ生き残っているか不安を募らせる結果でした。

3日目は、ミヤマシジミの富士山での唯一の生息地、梨ヶ原で幼虫の調査を行い、少ないながら4頭の幼虫が確認され、火入れが行われず本種の幼虫が全く確認できなかった昨年に比べ、火入れが行われた今年は、成虫の個体数が復活するのではとの期待を持たせる結果となりました。午後には、梨ヶ原でアサマシジミ幼虫の調査を行いました。幼虫の食べる植物(食草)の生育が遅れているようで、全く確認することは出来ませんでした。

良い天気と意欲的なボランティア恵まれ、予想以上の成果を挙げる事が出来ました。また、5月下旬～末には、「湧水の生物とカヤネズミ」と「林と草原の鳥」の2つの新しいプロジェクトがスタートする予定になっています。

河口湖フィールドセンター周辺の自然 ～夏鳥の季節となりました～

今年は寒暖の差が激しく、春から秋を日本で過ごし繁殖する夏鳥の代表キビタキとオオルリの渡来時期が心配されましたが、昨年は4月上旬に早くも現れたキビタキと昨年は6月になってようやく現れたオオルリが、両方とも4月下旬には現われ、5月中旬には巣づくりに励んでいるようで、きれいなさえずりが赤松の自然林に響き渡っています。どちらのオスも繁殖期には鮮やかな色になり、最もきれいな時期ですので、関東地方から週末を中心にバードウォッチャーが集まっています。昨年話題となったイスカは、今年はまだ1回しか目撃されていませんが、自然林と人工林、ビオトープの池が隣接する環境に、たくさんの野鳥が見られる河口湖フィールドセンター周辺は、バードウォッチャー達の野鳥観察の穴場になっています。



ショート・ニュース

- 昨年の5月にコシアブラの大木が違法伐採されたことを報告しましたが、今年も、5月9日の朝Aトレイルの真ん中にあったハリギリの大木が違法伐採され、新芽だけが持ち去られていました。剣丸尾溶岩流上の自然林の価値もわからず、大胆な違法行為が2年にわたって繰り返されたことに、大きな憤りを覚えます。
- 「富士山生物多様性研究イノシアティブ」の第2節が、6月11～13日に絶滅危惧チョウ類を対象に、18～20日に湧水の生物とカヤネズミを対象に、26～28日に絶滅危惧鳥類を対象にして行われる予定です。

町の文化財紹介

いにしえ こ みち

富士河口湖古の小径

河口湖ステラシアター

多くの人に支えられ十五年(中編)

〈ステラシアターのオープン〉

その後工事は大きな問題もなく平成七年四月末に工事を無事終え、翌月の五月に完成記念式典ができるまでにこぎ付けた。それまで約一年間取り組んできた運営期間は、多忙を極め、また他には事例の無いこともあり、複雑そしてエンタテインメントの世界の独特な概念に必死に食らいついていった。当時からとにかく関係者すべてが必死だったことを今でも良く覚えていてる。

ステラシアターは野外音楽堂である特長と三千名収容という条件を最大限に活かし、今後の良き事例ともなるよう、まず、観光地におけるホールの運営方針として、県外からの動員ツールとなるよう、国内市場のシェアを握っていたポップス系コンサートに着目し、また将来のファンづくりをしつかりと見据えていくために、団塊の世代を主なターゲットにしたオリジナルなポップスコンサートを同年七月に開催した。森山良子さん、玉置浩二さんの進行により加山雄三さん、イルカさん、GAOさん、伊藤多喜雄さん、そして前田憲男さん指揮による国立音楽大学学生さんによるオーケストラによるオリジナルでお洒落なコンサートは、満員の聴衆で客席は埋めつくされ、フィナーレには舞台後ろから大輪の花を咲かせる大きな花火が打ち上げられた。また、地元住民の皆さんもたくさんの方が鑑賞し、音楽堂オープンを喜んでくれた。当時人口約一七五〇〇人の約三分の一が従事していた観光及び周辺サービス業の方は、夏の稼ぎ時でしかも週末にはとても参加することは不可能ではあるが、来場者によって宿泊や食事など地元経

済に及ぼす新たな拠点施設を歓迎してくれたことは、とても大きな財産であったと同時に河口湖が文化に力を入れて地域マーケティングを作るビジョンが明確になった良い機会でもあった。

〈ホールボランティアの参加〉

ステラシアターの建設が始まったころから、住民の皆さんと一緒に運営を取り組むというスタンスは根底に持っていた。オープニングコンサートの企画立案と運営方針をまとめながら、文化芸術に興味のある住民の方を中心に運営ボランティアとしての公募を始め、その結果、オープニングコンサート開催の時には、約三十人の方々が光栄にも参加をしてくれた。それぞれに思いを伝え集まってくれた方々は、音楽堂に関心を示し、真摯に受け止め、具体的な業務についてくれた。音楽堂の開設にあたり、目に見えない基礎的な部分を住民の皆さんにも支えていた、いただいたのは、お互い高め合う部分でも大きい。オープニングシーズンの成功の裏には、こうした動きがとても大事だとコンサートの実績を踏まえるたびに感じる。

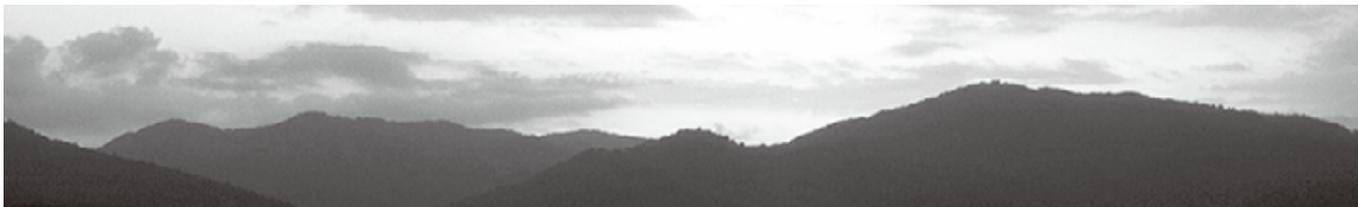
その後ボランティアの動きが進化を遂げて、ステラシアター専属ボランティアグループ「サポーターズクラブ」を平成十年五月に立ち上げ、ボランティアのあり方、運営方針などを決めて具体的な行動に移していった。このサポーターズクラブの動きが、後の富士山河口湖音楽祭への立ち上げと展開に大きな役割を果たしていった。

〈音楽祭の創設〉

平成十三年八月一日(水)、佐渡裕さんの指揮によるPMFオーケストラコンサートを

行なった。兼ねてから佐渡さんがステラシアターのステージで指揮を振ってもらえたらと思う日がようやく実現できた瞬間でもあった。会った瞬間それまで緊張していた気持ちが一気に解き放たれ、佐渡さんの人柄によってとても心地よく、それまでの興奮が嘘のようにゆったりと落ちついた気持ちでその場を過ぎた記憶がある。演奏会終了後、「来年また何かやろう!」と、佐渡さんからの声がとても新鮮で、心に深く残った。そんな中、同年十二月末に佐渡さんの指揮によるシエナ・ウインドオーケストラの本番があることがわかり足を運んでみた。舞台が進行するにつれ、会場内の空気が張り詰めて、舞台の音に集中するあまり、





時間を忘れるほど深みにはまっていた。しかし、途中で演歌やアニメソングの主題歌が演奏され、最後のアンコールでは、楽器を持参している方は舞台上に上りましょう、という佐渡さんのアナウンスに呼応するように、多くの方が舞台へ向い、佐渡さんの指揮で参加者全員による「星条旗よ永遠なれ」が演奏された。普通のクラシックコンサートのように、しつとり感はなく、むしろ、全員で楽しんだ爽快感が残った。吹奏楽部に所属している地元 학생들이多く集まる中に、楽器を持参する大人も多く、幅広い世代の楽器仲間が集う空間になっていた。この機会が大きな契機となり翌年の一月にはすぐに音楽祭開催準備会をはじめた。ステラシアターサポーターズクラブを立ち上げから支えていただいている小佐野昭二会長とボランティアスタッフで事務局の在原洋子さんを中心に、これまでの課題、将来への目標、文化によって、地域があるべき姿など幅広く交わした話題は、現在の音楽祭実行委員会の設立趣意書としてまた現役である。

へいよいよ音楽祭スタート

当初は(仮)佐渡裕音楽プロジェクトであった。このプロジェクトの先々を想定しながら、中学、高校の吹奏楽部顧問などに趣意書を持って参加を呼びかけた。先々で快諾をいただきながら、一方で現状の課題などを聴いて回った。先生方は日ごろの活動の中では、学校の枠や吹奏楽関係の組織の枠から外れて取り組みを作る大変さや課題を認識しており、それから外れて子どもたちのために取り組んでみたいアイデアや、姿勢はいろいろな角度から大いに感じられた。つまり、このアイデアが子どもたちに近い目線であり、もしこれが具体的に実現できたら、きつとニーズは確立され

るものと感じ、そして、取り組みが続けられれば、きつと企画としての市民権は得られるだろうと感じた。先生は子どもの日ごろの活動などはよく把握しているが、我々は子どもたちの行動についてイメージでしか話すことができない。一方、先生が組織を超えて大きな展開にすることは多々難しい面がある。しかし、ホール側は日ごろから社会全体を見据えてコンサートなどを企画し、展開していることから、両者が手を携えることができれば大きな意義ある動きができると感じ、吹奏楽部顧問の先生方、サポーターズクラブメンバー、高校生音楽地域づくりグループのメンバー、行政関係、そしてホールスタッフでプロジェクトを立ち上げた。地域づくり“人づくり”という「育てる」視点を皆さんで共有し、実行委員長はサポーターズクラブの会長、委員は現場で実務的に動く方で構成し、行政関係、吹奏楽連盟各役職者には、顧問など全体を見渡し協力する立場に立っていただくことにした。この動きは佐渡さんや事務所関係者にも事前には伝えた考え方はあるが、先々の文化づくりの視点に切り替えて関係者全員が一つの方向性で共有できたことは、新たなプロジェクトを進めていく上でとても大事な部分でもあった。また、とても光栄なことに佐渡裕さんもこの実行委員会の特別委員になつてくれたことは、とても大きかった。大きな支えを得た組織は、いよいよプロジェクトの中身を考えていく準備が整った。

【次号(後編)に続く】
特別寄稿 河口湖ステラシアター
野沢藤司

本栖の公家行列について

五月十七日(月曜日)に本栖地区で恒例の公家行列が行われました。公家行列は、本栖地区に所在する山神社のお祭で、本栖地区民が総出で行われる大きな行事です。



十七日の朝、山神社で祭事を済ませた氏子さんたちは、それぞれ大名などの役職に従った衣装に身を固め、長柄・はさみ箱、旗、弓、ちようちん、毛槍などと別れて隊列を組み、お神輿の前を行進します。本栖湖畔を悠々と行進しながらの掛け声は、「アレサーテーサー」に代えて「ソウイ、ソイ」とあいづちを打ちます。特に行列を活気づけるのは、ヤッコに扮した毛槍持ちの槍渡しです。六人の毛槍ヤッコが「イヤサーテーサー」と声をかけ合つて踊りながら、交互に槍を投げ渡して行きます。

公家行列は、戦国時代から引き続き、江戸時代に当地の警護を任命されていた渡辺囚獄佑が、若者の士気を高めるためにはじめたものと伝えられています。甲斐・駿河の国境地域で行われる、伝統的で勇壮な行事です。